

Vol.62

2020.1
January

京都

ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

- 2 新年のご挨拶
- 3 第8回京都府介護支援専門員研究大会
- 4 令和元年度公益社団法人京都府介護支援専門員会府民公開講座
- 5 介護予防のための地域ケア会議研修
- 6 災害対策委員会から
- 7 「京都式」ケアプラン点検方式 ―令和元年度活動報告―
事務局のご紹介
- 8 事務局からのお知らせ／編集後記



新年のご挨拶

公益社団法人 京都府介護支援専門員会 会長 井上 基

京都府介護支援専門員会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。平素は、本会活動に多大なご協力をいただいておりますことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

新しく幕を開けた令和の時代も無事に2年目を迎えましたが、令和元年であった昨年1年間は皆さんにとって、どのような年だったでしょう。

学生時代のほとんどの時間をあまり勉強もせずに「スクラム」を組んで過した私としては、「ラグビーワールドカップ」の話題から触れることをなにとぞお許しください。ちょうど4年前のケアマネ・ポート新年号の巻頭挨拶で、2015年イングランド大会予選、日本代表が「南アフリカ」に奇跡の勝利を果たしたこと、そして、五郎丸選手のルーチンポーズの話題に触れたことを思い出します。あれから4年後、日本で開催された2019年日本大会では、ついに日本代表は予選を全勝で通過しベスト8という結果を残し、その時の実況アナウンサーの「もはや奇跡とは呼ばせない…」という言葉には、思わず涙がこぼれそうになりました。私にとってこの出来事は、「強かったチームがいつまでも強いとは限らない」「当たり前だと思っていた既成事実がいつまでも続くとは限らない」「絶対に無理だと思っていたこともいつか当然のようにできるようになるかもしれない」…等、まさに大きなパラダイムシフト（今までの考え方や価値観が180度変わることを実感した瞬間でした。

既成の価値観・事実が時代とともに大きく劇的に変化していく、この流れはスポーツの世界だけではなく、当然のことながら私たちが仕事をしている医療・介護・福祉の分野でも起こっています。“自宅での看取り”や“長男の嫁”が自宅で介護するのが当たり前だった時代を経て、「介護の社会化」の謳い文句とともに導入された介護保険。不十分とは言え、一定の介護インフラが整備されてきた今の社会の中で、地域包括ケアシステムや地域共生社会という新しい概念が生まれてきました。そこでは、既存の価値観や事実をもとにしたケアマネジメントにとどまらず、また、「医療と介護」「施設と在宅」「専門職と非専門職」「都市部と地方」など単純に二元論的に住み分けるのではなく、様々な領域が意図的に重なり合いながら目指すべき介護のあり方を見つけていく、新しいケアマネジメントがケアマネジャーには求められています。

私は、介護保険制度導入の最大の成果は、ケアマネジャーという新しい職種が誕生したことだと思っています。すべての支援を必要としている人にケアマネジャーという専門職が支援者として側にいる仕組みが、さまざまな批判はありながらもこれだけ社会や他の専門職に受け入れられたことは、ある意味“奇跡”なのかもしれません。しかし、私たちケアマネジャーは、「もはや奇跡とは呼ばせない」という自負を持ちながら、常に新しいケアマネジャー像を模索していく必要があるのではないのでしょうか。

ラグビーの話題ですと、このまま何枚も原稿を書いてしまいそうであり、また、どんどんケアマネジャーの話題から離れてしまいそうなので、このあたりで終わりにします。最後になりましたが、今年一年、皆さま一人ひとりとご家族、そして、すべてのケアマネジャーにとって良い年となりますよう祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

第8回京都府介護支援専門員研究大会

令和元年10月26日(土)メルパルク京都にて、第8回京都府介護支援専門員研究大会を開催し、71名の方にご参加いただきました。今回は「地域共生社会の実現に向けて～介護支援専門員に求められるものとは～」をテーマにしており、午前の基調講演では「介護保険を取り巻く状況から介護支援専門員の役割を考える～今後求められる介護支援専門員像～」と題し、厚生労働省老健局振興課課長補佐 川島英紀氏にご講演いただきました。地域共生社会の実現に向けての取り組みやインセンティブ交付金といった今後、介護支援専門員に関わりが出てくる内容や、ケアマネジメントにおける保険外サービスの組み合わせ、質の向上や利用者負担の導入など関心の高い盛り沢山の内容でした。最後に



まとめとして、これからの介護支援専門員の方向性について①公正中立・質の高いケアマネジメントの提供②主任介護支援専門員を中心とした人材育成・他機関連携③ICTを活用した事業所内・外連携の3点についてお

示いただき終了しました。

午後からは研究発表を行い、6演題の発表と1演題のポスターセッションがあり、人生の最終段階における意思決定支援への関わり、2号被保険者が社会復帰するまでを障害受容過程をもとに考察した研究、ハラスメント行為を受けながらも支援を続けるヘルパー事業所へのインタビュー調査、虐待の可能性のある事例へのケアマネジャーの対応からの考察、白内障術後を支援したことで被害妄想が軽減しQOLが向上した事例の考察、独居高齢者の在宅死を支援した事例を終末期看護モデルで振り返り検証した研究発表など、多種多様な研究発表をいただき、会場からも多数の質問をいただきました。



終了後、発表者のみなさまと振り返りを行い、企画研修「研究大会に向けて研究発表を学ぶ」を受講し、その過程で悩みながらも発表の方向性が徐々に定まり自信を持ってたといった感想を聞かせていただき、達成感に満ちた晴れやかな面持ちをされていました。

本年度より優れた発表への表彰をとりいれました

3名の採点者がオリジナリティ、研究手法や考察等を点数化し総合点で決定しました。

- 🏆 優秀発表賞 【賞状・第19回近畿ブロック研究大会参加費・文具セット(※)】
 🌟 南丹市社会福祉協議会ほほえみ八木居宅介護支援事業所 國府 美幸氏
 - 🏆 介都くん賞 【賞状・羽毛クッション(※)】
 🌟 合資会社小春日和居宅介護支援事業所 松味 喜久代氏
- (※) 提供：東洋羽毛関西販売株式会社



<出展企業>

出展ならびに副賞をご提供いただき誠にありがとうございました。

- 第一法規株式会社 (賛助会員)
- 株式会社クリエイツかもがわ ● 中央法規出版株式会社 ● 東洋羽毛関西販売株式会社 ● 西山こっぺ堂

盛会に終わりましたことをご報告するとともに、講演いただきました川島様、演題発表者のみなさま、出展企業様ならびにご参加いただきましたみなさまに感謝申し上げます。

次回、第9回京都府介護支援専門員研究大会は令和2年10月24日(土)メルパルク京都を予定しておりますので、みなさまのご参加ならびに演題発表を心よりお待ちしております。

(常任理事 村上 晶之)

令和元年度公益社団法人京都府介護支援専門員会 府民公開講座

令和元年11月9日(土)ハートピア京都にて、府民公開講座を開催いたしました。今回は「食から生活を見直して健やかに暮らす」をテーマに講演と映画の2部制で92名の府民の皆様にお越しいただきました。



第1部は「高齢者の運動器疾患と栄養～目指せ！寝たきりゼロ～」と題して、神戸学院大学栄養学部教授 田中清氏に、ご講義をいただきました。骨粗鬆症による大腿骨近位部骨折は要介護状態、変形性関節症は要支援状態の重要な原因である。カルシウム・ビタミンD不足は、重要な骨折リスクであるにも関わらず、これらの不足者の割合は非常に高い。運動器疾患予防において、栄養の果たすべき役割は非常に大きい。ということデータを基に説明いただき、各種食品の摂取目安や、日光浴の重要性などを学ぶことができました。「運動器疾患予防には各種ビタミンK・D、太陽光線と運動が必要と改めて認識しました。」「健康に過ごすために栄養状態の良し悪しが大切である事がよく分かった。ついつい病気になった後の事ばかり考えてしまうので予防の大切さがよく分かった。」「ビタミンDが不足すると

骨折リスクがあがる事がよく分かった。自分の食生活を見直すようにしたい。」などのご感想をいただきました。



第2部では、映画「ケアニン～あなたでよかった～」を上映しました。作中では、介護・看護など人の「ケア」に関わる人を、堅苦しくない呼び方として「ケアニン」という言葉で紹介されていました。介護職の魅力が分かりやすく描かれた内容で、新任職員が認知症ケアや終末期ケアについて苦悩しながらも実践し、利用者・家族と信頼関係を築いていく過程に「感動した。」「私もケアニンの仕事についてよかったと映画を観て思いました。」というご感想をいただきました。

介護支援専門員としても、利用者支援に関して栄養の観点を持って業務にあたることや、伴奏支援の大切さを改めて認識することができました。また、府民の皆様にも、介護支援専門員の役割についてご理解いただく機会となりました。

当日ご出講いただいた田中先生、またお越しいただきました府民の皆様、誠にありがとうございました。来年の府民公開講座にもぜひお越しいただきますよう、よろしくお願いたします。

(理事 中吉 克則)

介護予防のための地域ケア会議研修

地域ケア会議が介護保険に位置づけられて久しく、地域ケア個別会議や地域ケア推進会議等、開催の目的・方法によって分化し、市町村毎で様々なスタイルが定着しつつありますが、同時に格差が危惧されているところでもあります。これらを平準化すべく、様々な切り口で地域ケア会議に関する研修も開催されています。こういった動きは、地域包括ケア体制構築のためのツールとして地域ケア会議への期待の現れのひとつです。地域ケア個別会議では多職種からの専門的な助言を得てケアマネジメントがブラッシュアップされます。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の三療法士は地域ケア個別会議への派遣のために助言者としての人材育成も始まりました。



今回、京都府からの委託を受け、地域ケア個別会議を要支援者の課題解決等、状態の改善に導き自立を促す場とするために、介護予防のための地域ケア会議研修を開催しました。令和元年10月16日(水)に北部(綾部市ものづくり交流館 2階 多目的ホール)、および令和元年10月23日(水)南部(ハートピア京都 3階 大会議室)にて開催し、計89名の方が受講されました。

本研修は、事業対象者の地域ケア個別会議における司会・進行の役割を通し、出席者である専門職に何を求めるのかを明確にすることで、効果的な会議運営を図れるようになることを目的としています。模擬地域ケア個別会議の動画を視聴し、司会や出席した専門職のやり取りの分析の後、模擬事例を使い、どの専門職にどのような助言を求めるのかを考えるグループワークを行いました。各専門職への期待を言語化することで、マネジメントにおける専門職の活用を理解して頂くと共に、円滑な運営のための事前準備や関係者への根回しなどもイメージしていただけたと思います。修了後のアンケートでも「司会者の役割の大切さ、事前準備の重要性について知ることが出来た。」「これまでは地域ケア個別会議に参加したり、事例提供をしたりするだけだったが、開催する側の要点がよく理解できた。」「もやもやしていた地域ケア個別会議が理解できました。」(アンケート自由記載抜粋)など、多くの方に研修の意図が伝わったと自負しています。また、「今日学んだことを実践していきたい。」「これからの会議に活かしていきたいと思う。」など、これからの実践につながる意見も多数あり、研修効果にも期待しています。

前述のように参加者である専門職向けの人材育成も始まる中で、ケアマネジャーもケアマネジメント力を高めなければなりません。当会として地域ケア会議関連の研修事業の受託は今回が初めてのことで、このような依頼が当会にあった背景にはそのような期待があるものと考えます。この受託をきっかけに、地域ケア会議分野に関しても当会の役割を開拓していきたいと思っております。

(副会長 松本 善則)

災害対策委員会から

いきなりですが皆さん、少し考えてみてください。皆さんが担当する次の3名の方があるとします。①認知症で独居の74歳女性②ALSがあり一人で動けない68歳妻と長男の3人暮らしの男性③両変形性膝関節症で伝い歩きの83歳長男と2人暮らしの女性。この地域に大地震が起こった場合、災害リスク（避難しづらさ、安否確認の優先度）が高いのは誰でしょう？京都府災害対策委員会の企画研修は、毎回ここから始まります。正解はありません。グループで避難誘導の優先順位を相談してもらいますが、毎年グループによって答えはわかれます。でも、どのグループもそれぞれに根拠があつての順位となっています。

今期の災害対策委員会は理事4名、委員3名で活動しています。今年度は、京都府介護支援専門員会として、京都府内外での災害時の体制づくりが目標で、そのための活動の一つが災害を想定した机上訓練の企画です。毎年防災月間である9月に開催し、事業所や個人として日ごろの備えを考える機会としており、毎回50名程度の参加者で賑わいます。



(企画研修での演習の様子)

また、今年度から日本介護支援専門員協会の災害特別委員会にも当委員会から委員を推薦し、京都での活動の様子を伝えながら、各支部の現状を共有し、今年被災された地域でのケアマネジャーの様子や協会の活動状況を把握しながら、次の災害ケアマネジャー養成講座の企画、災害対応マニュアル第5版発行の準備を始めています。そんな中、京都でのDWATにも会員を推薦しており、平成27年熊本地震以降被災地で活動してきました。その主な内容は、医療福祉チームによる避難所での福祉相談及び環境整備などへの支援です。

実際被災地では現地の行政、地域包括支援センター



(京都DWAT研修会での避難所での実地訓練の様子)

も機能が低下しており、当然ケアマネジャー自身も被災をしていることがあります。また、支援するチームにとってもその活動を通じてケアマネジャーとしての学びも多くあるようです。メールマガジン121号の村上晶之常任理事の記事を紹介します。

「地域包括ケアシステムが推進することが減災・防災につながるように感じられる。顔の見える関係が専門職間だけでなく、行政や住民とも顔の見える関係であれば、ある程度の課題には対処できるように感じる。本年8月に、京都DWATとして岡山派遣を経験してそう思った。(中略)。家を失った方々に頑張れとは言にくい。でも、やはりケアマネとしては自立支援の観点でモノを考えてしまう。気付くと実践の繰り返しだったが、我々が提案したことに対して岡山もどう判断しているか悩まれ、折り返し相談されることもあった。派遣チームは現地の負担となつてはいけないのが大前提だが、信頼関係があれば受け取りかたも変わってくる。逆に信頼することで派遣チームの援助力を最大限に引き出していたかもしれない。被災した際に取り入れたことを学ばせていただいたように感じる。」

日本介護支援専門員協会や当会においても、今後引き続き災害に関する研修を企画しています。ご自身でも災害に関する研修や書籍など、知識を取り入れることで、ケアマネジメントにおけるより多角的なアセスメントや新しいインフォーマル支援の発掘などにも繋がります。日々災害のあるごとに国の制度や情報ツールも変化していきます。我々ケアマネジャーのケアマネジメントも手法や支援は進化していくのかもしれませんが。

(常任理事 柴田 崇晴)

「京都式」ケアプラン点検方式 — 令和元年度活動報告 —

昨年度当会ケアマネジメント委員会が中心となり保険者の意見も反映させて「京都式」ケアプラン点検方式が完成しました。

令和元年8月徳島県で開催された日本介護支援専門員協会の都道府県支部長会で全国の先駆的な取組として発表する機会を得ました。複数の支部長より、保険者と一緒になり作成したプロセスを高く評価していただきました。「京都式」が「京都発」として全国各地に広まれば幸いです。

今年度の研修は、＜基礎＞＜実践＞合計220名の募集に対し、451名の申込がありました。＜基礎＞は9月26日(木)140名と、11月22日(金)に追加コースを設けることで更に83名の計223名、＜実践＞は11月11日(月)144名にご受講いただきました。両コースとも点検方法を学んでもらうために、演習を中心に行っています。ガイドラインには、自立支援に資する視点が整理してある

ため、受講者からは「もっと詳しく聞きたい」という意見が多くありました。また「これを共通言語としていけば点検しやすい」とうれしいご意見もありました。2年目になり効果を実感しました。ガイドライン及び点検表は既に当会HPで公開しているため、各自が一読してから研修会に参加するとより一層の効果が期待できると思います。

今後は、①ケアプラン点検表の実態調査を行い、点検項目及び評価指標の見直しを行う。②介護予防版・施設版の点検項目を整理する。③市町村のケアプラン点検事業や事業所の依頼に基づきケアプラン点検ができる体制を整える。以上3点を重点事項として、ケアマネジメント資質向上に向け活動していく予定です。

(常任理事 川添 チェミ)

事務局のご紹介

会員の皆様、あけましておめでとうございます。昨年4月に事務局長を拝命いたしました野口武彦と申します。これまでの経験を活かし少しでも当会の発展にお役に立てたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

さて、我が国は人口置換水準といわれる合計特殊出生率2.07を1970年代半ばに下回るも平均寿命の延伸によりその後人口は増加していましたが、2005年には自然増減(=出生数-死亡数)がマイナスとなり本格的な人口減少の時代となりました。これに伴い、高齢化率も徐々に高まり、国立社会保障・人口問題研究所は2015年の26.6%から50年後の2065年には40%弱まで達するという推計がされています。

当会事務局は、このような状況下、会員の皆様のみならず介護を社会全体で支え合うことを目的とした介護保険制度の一翼を担う介護支援専門員の方々の資質向上や社会的地位向上のための事業を実施する

機関となります。具体的には、京都府から受託する法定研修、独自に企画する研修、市町村から受託する認定調査などですが、これら事業を確実に実施することは当会の基盤となるものであり、これを礎に行政機関、関係団体、介護保険事業者との連携・協働により当会が介護保険制度という大きなシステムの中で欠くべからざる組織体となるよう役員の方々を支え、共に歩んでいくことが重要であります。

府民の皆様の介護保険制度への期待は大きく、その反映として制度は随時見直しに加えられ介護の現場におられる皆様方も大変とは存じますが、利用者の皆様への分かりやすい説明のため日々研鑽に努めていただけるよう研修等当会の事業を通じてお役に立てればとの思いで事務局員ともども奮闘の毎日です。

(事務局長 野口 武彦)

事務局からのお知らせ

■ 令和2年度会費納入のご案内

◇ 会費納入のご案内【口座振替】が同封されていた方へ

令和2年度の年会費を、令和2年2月27日(木)にご指定の金融機関より、振替させていただきます。同封の「会費納入のご案内」【口座振替】で金額をご確認のうえ、振替日の前日までにご指定の口座にご準備いただきますようお願いいたします。

◇ 会費納入のご案内【振込】が同封されていた方へ

期日までに「預金口座振替依頼書」のご提出がありませんでしたので、「会費納入のご案内」【振込】を確認のうえ、お振込みいただきますようお願いいたします。

振込期限：令和2年3月15日(日)

※事務手続き上、なるべく令和2年2月27日(木)までにお振込みいただけますよう、お願い申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくをお願いいたします。

昨年は平成から令和と新しい年の幕開けとなり、皇位継承の行事・儀式だけでなく、各地域でも様々なお祝いイベントが催され、良い事のあった年だったなと思っています。皆さまもなにか行事に参加されましたでしょうか。テレビを見ていただだけでも、長きにわたる日本の歴史と伝統の重みに触れる機会が出来て、良い国で平和に過ごせる大切さを改めて感じ取れた気がします。

今年2020年、令和2年の干支は「子」です。十二支の一番初め、新たなスタートとなります。「子」はふえるという意味で、新しい生命が種子の中に萌し始める状態を表すそうです。またネズミは子孫繁栄の意味がこめられています。今まで溜めていた力を、新しい年に持ち込み突入する…そんなイメージが持てるように感じます。株式市場にも子年は繁栄という格言があるそうです。私たち介護支援専門員も今まで研鑽してきたことを、更に大きく一緒に成長できるように、新しい年が更に良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

(理事 橋本 かおり)

京都ケアマネ・ポート62号

2020年1月1日発行

発行人：井上 基

広報委員長：中嶋 優

広報委員：北野 太朗 柴田 崇晴 村上 晶之 橋本 かおり 松本 善則

発行元 公益社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/

京都銀行 府庁前支店 普通口座 4151049 シャ) キョウトフカイゴシエンセンモンインカイ